

# こだまスイカ産地における 園芸振興の取組

筑西市・桜川市では約400名のこだまスイカ生産者がおり、日本有数の産地となっています。しかし、こだまスイカ栽培は高齢化による担い手の減少や価格低迷などの影響で減少しつつあります。

そこでこの状況を打開するために、普及センターがJA、任意組合、個人出荷生産者、地元種苗会社等に働きかけ、垣根を越えた「こだまスイカ産地活性化検討委員会」を平成19年に発足させ、産地の課題解決と活性化をすすめています。

## ■ 集落座談会による産地課題の抽出 ■

産地の現状把握と活性化方策を見いだすため、「こだまスイカ産地活性化検討委員会」と普及センターが連携してアンケート調査（全戸対象）と集落座談会（5地区）を重ねて開催し、産地活性化の課題として、①産地PR ②連作障害回避 ③労働力不足への対応などを抽出しました。



集落座談会での産地課題の話し合い



スイカアイス、ストラップの作製・販売

## ■ 産地PRと消費拡大の取り組み ■

- 出荷最盛期を迎える5～6月をPR強化月間として、市役所ロビーなどへのPRブース設置、道の駅やコンビニなどへのスイカマップ設置、直売所へののぼり配布などにより、知名度向上を図っています。
- 産地女性の会ではスイカアイスやストラップを作製し、イベント等での販売促進・PRに取り組んでいます。

## ■ 生産技術・経営の課題解決 ■

- 連作に伴うおれ症対策として、還元型太陽熱土壌消毒の試験ほを設置し、効果の確認と普及を進めています。
- 労働力不足対策として、ヘルパー制度を導入している市町村や、先進農家の現地視察を行い、地域に適した雇用システムを検討しています。



還元型太陽熱土壌消毒現地検討会